



学校通信

平成29年度 第2号
平成29年 5月 1日
練馬区立開進第三小学校
校長 土屋 信行

自分の子供が一番かわいい

校長 土屋 信行

私が担任だった頃、同学年の他の学級に、ご家庭の事情で日常生活に支障を来し、辛い思いをしている一人のお子さんがいました。転入生だったのですが、なかなか新しい環境に馴染めず、担任も接し方に苦慮していました。

そんな時、その子の身の回りのお世話を、他の人には分からないようにくださる保護者の方が同じ学級にいらっしゃいました。そして、その方のお子さんの学級内での働きかけもあって、その子も次第に友達が増え、笑顔も見られるようになったのです。

その学年が卒業した後、その保護者の方と個人的にお話をする機会があったので、どうしてそこまでやってくださったのかを聴いてみました。するとその方は、「先生、当たり前ですけど、私は自分の子供が一番かわいいと思ってます。一番かわいい子供が、毎日楽しく、友達と仲良く過ごしてほしいと願ってます。そう考えたとき、同じクラスのお友達で、辛い思いをしているお子さんがいるのを知ったら、放っておけないじゃないですか。そんな子がいるのに、自分の子供が楽しければいいなんて言っていられません。みんなが楽しくなければ、本当の意味で自分の子供も楽しんでいるとは言えません。自分にできる範囲のことしかできませんでしたが、何かのお役に立てればと思ってやっていただけです。」このようにおっしゃったのです。

「自分にとって一番かわいい自分の子供が楽しく過ごすには、周りの子も楽しくなければいけない」教育に携わる者として、私は強い衝撃と深い感動を覚えました。今現在、私がいろいろな場で「楽しく過ごす」という話をさせていただく時に、この経験は間違いなく私の考え方の基本、原点となっています。

私は校長として開三小に赴任して四年目になりますが、現在の開三小においても、上述の方と同じような気持ちで他のお子さんのことを大切に思ってくださいる方がいらっしゃいます。みんなが仲良く、楽しく過ごせるように、声をかけたり、褒めたり、叱ったりして、子供たちにかかわってくださっている保護者の方、地域の方が複数いらっしゃるのです。きっと私の存じ上げないところにも、そういう方はいらっしゃることでしょう。本当に有り難いこと、素晴らしいことだと感じています。

「自分の子供が一番かわいい」これは誰もが同じだとするなら、「だから何かをしてほしい」と周りに求めるのではなく、「だから自分はどうするのか・何ができるのか」をしっかりと考え、実行したいものです。改めて「みんなの子供をみんなで育てる」ことのできる家庭・学校・地域でありたいと強く願います。

